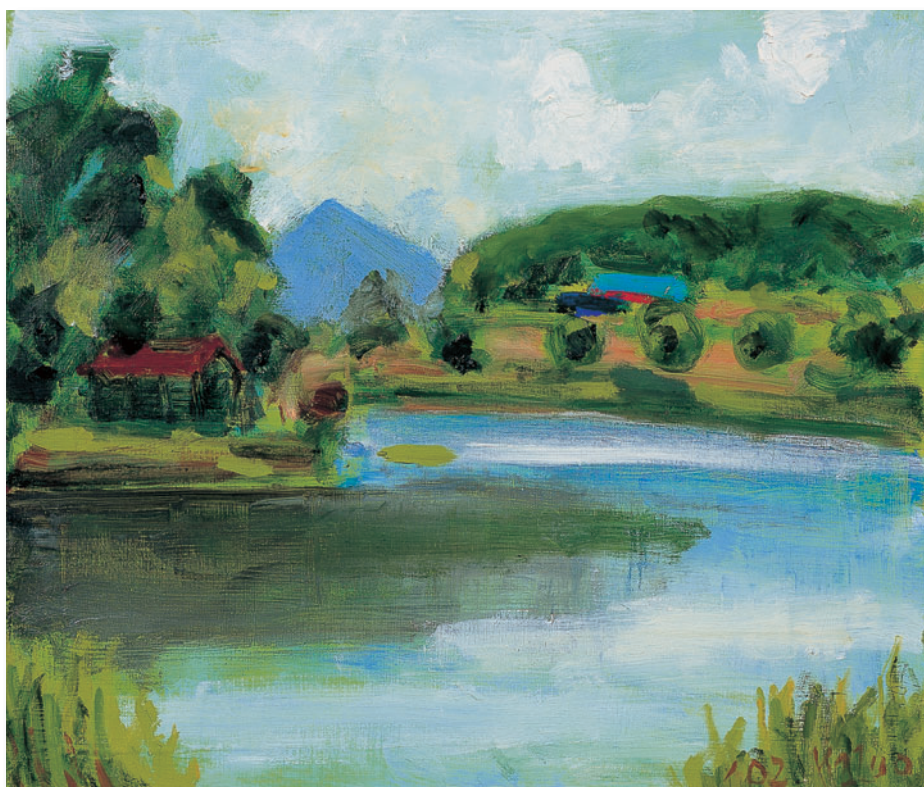


三春町立三春病院
新病院開院特集

- ポラリス保健看護学院戴帽式
- 開設83周年記念式典
- 助産師による思春期保健教育へのアプローチ
- 糖尿病性神経障害に対するバブ浴の取り組みについて
- 施設ニュース
- トピックス



理事長 星 一雄

西醫靈藥

指定管理者として町立三春病院の運営を開始して一年が経過した。公設民営方式の病院運営はこれまでにならず多くの例は無く、福島県内のみならず全国から大きな関心が寄せられているところである。

安全・安心な医療の提供は勿論のこと、地域連携・開かれた病院づくり、「教育研修の拠点病院」とれらを私ども職員全員のテーマとしてこの一年間取り組みを行ってきた。具体的には、三春盆踊り、秋祭り、さくら湖マラソン大会等、地域で開催される行事には積極的に参加し、住民の皆様との交流の中で当院に対してのご意見を直接伺い、病院運営に反映してきている。

また、教育研修面においては、職員研修はもとより「三春・田村地域の看護・介護職研修会」、小中学生等を対象とした「どこでも健康教室」等、地域に出向いての出張研修を数多く開催し、なかなかの好評を得ているところである。

この5月には新病院も完成し、新しい機能としてのリハビリテーション室、撮影速度と画像が格段に向上したマルチスライス型CT等を導入し、田村地区の中核病院として更に充実した医療の提供ができるものと思っている。

今後はこの新しい病院の機能を遺憾なく発揮し、より良い医療・サービスの提供を行っていく為、ますます私ども職員の質的向上が求められてくるものと考えています。

「一人ひとりが自己の役割を充分に認識し、患者さん、利用者さんに何ができるかを考えながら、三春町との協力体制の中で地域ニーズに応えられる魅力ある病院づくりを続けていきたい。」 渡辺 順一

＜醫靈＞靈をも醫やしたい——という創始者の願いを医療従事者の医の心とすべく造られた当院の理念

新病院開院特集

当法人が指定管理者として運営を行っている三春町立三春病院の新病院が完成し、5月7日より診療をスタートしました。これまでの動きや建設までの流れなどを特集にてご紹介いたします。



完成イメージ図（H20.9頃の予定）

これまでの 経 緯

- H18.6 旧県立三春病院の町立病院化に伴い、三春町からの病院指定管理者に当法人が選定される
- H19.1 プロポーザル方式での新病院建設業者の募集が行われ、選考の結果、清水建設㈱に決定する
- H19.4 三春町が開設、当法人が管理運営する三春町立三春病院が開院
- H19.6 地鎮祭挙行 病院同一敷地内での工事を開始（旧三春保健所部分の解体作業開始）
- H20.4 新病院完成、内覧会の開催
- H20.5 引越し 新病院開院

建設までの過程 工事のようす



H19.6 基礎工事スタート



H19.10
南棟基礎工事が着々と



H20.3
外側の足場が外れて



H20. 4
病院外側の舗装の様子

完成・内覧会

新病院は「あたたかくぬくもりのある病院」をコンセプトに、患者さんや職員にとって使いやすい病院となるよう設計されています。

新たにリハビリテーション室や健診センターを設置したほか、地域の教育拠点として研究室・研修室の機能の充実も図りました。病室は4人室を中心に2人室・個室があり広くゆったりとしたつくりで、病棟ごとに新たにディールームも設けました。

また今回新病院移転に際してCT・内視鏡システムを新しく導入しました。特にCTはマルチスライス16チャンネルというこれまでのCTより、より詳しい検査ができる高性能のものが配備されました。

完成後4月29日には地域の住民の方々を対象に内覧会をおこないました。会では定礎の除幕式をおこない、午前午後を通して1,000人を超える多くの方々が来院されました。「とても良い病院ができた」「新病院で受診するのが楽しみ」などの声をいただきました。



定礎の除幕式



内覧会は多くの方が見学に
いらっしゃいました



ハンドベルや合唱のボランティア
アコンサートも好評でした

引越 し

5月1日より合計5日に渡って引越しを行いました。三春病院職員だけでなく、町役場職員・法人職員・関連業者などの協力のもと、安全を第一に慎重に引越し作業をおこないました。5月4日には入院患者さん30名の移動もご家族様のご協力をいただき無事終了しました。



物品移動の様子



入院患者さんも新病院へ



地域のボランティアの方々にも昼食
作りを手伝っていただきました。

開 院 式

5月7日、新病院での開院に先立ち、正面玄関にてテープカットを行いました。式では、鈴木義孝三春町長が「地域の住民の期待に十分応える病院にしていきたい」と述べ、引き続き渡辺直彦病院長が「地域のニーズを捉え、また新病院に負けないよう診療体制の充実を図りたい」と挨拶しました。

開院後は大きな混乱もなく、順調に診療が行われております。

患者さんやご家族の皆様から「院内が明るくなった」「広くゆったりとしている」といった声が聞かれています。



テープカットの様子



開院初日の内科外来待合室

今後の予定

5月中旬より旧病院の建物の取り壊し作業がスタートしており、現在駐車場の整備を行っております。9月のグランドオープンまで、限られた駐車スペースになってしまいご不便をおかけいたしますが、ご理解をいただきますようお願い致します。

戴帽式

5月8日

ホテルハマツにおいて、平成20年度ポラリス保健看護学院戴帽式を行いました。戴帽式は看護を歩む学生にとって決意を新たにする「立志式」であり、看護師を志しふさわしいと認められた看護学生に、看護師のシンボルであるナースキャップを与える儀式です。厳かな雰囲気の中、2年生(10回生)36名一人ひとりに、ステージ上で渡辺副学院長からナースキャップの戴帽が行われました。看護職を目指す者として改めて責任の重みを感じているようでした。

引き続きキャンドルサービスが行われました。キャンドルは『ナイチンゲールが暗い夜も患者さんのためにろうそくを灯し看護した』という言い



伝えから、看護の光・看護の心の火とされています。

昨年戴帽した3年生より引き継がれた看護の光を、一人ひとりがキャンドルに灯しました。

最後に2年生が自分達で考えた誓いの言葉、およびナイチンゲール誓詞を朗唱。看護する相手の立場に立ち、思いやりの心をもって看護の道を歩むという決意発表をしました。



誓いの言葉

私たちは今日待ちに待った戴帽式を迎えました。今、喜びと感動を噛み締めながらここに立っています。

私たちがこの日を迎えることが出来たのも、支えてくださった学院長先生をはじめ、先生方、先輩方、家族がいたからです。ここまで成長することができ、心から感謝しています。また、10回生全員でお互いを高め合い、頑張ることができました。

私たちは、何事にも対応できるような確かな知識・技術を身につけ、全ての人々から信頼される看護者を目指します。そして、患者さんの言葉によく耳を傾け、尊重することを忘れず、全ての人々に平等でありたいです。

私たちは、これからも初心を忘れることなく、全員で夢を実現し、生涯、誠実に看護の道を歩んでいくことをここに誓います。

ナイチンゲール誓詞

われはここに集いたる人々の前に

厳かに神に誓わん

わが生涯を清く過ごし、

わが任務を忠実に尽くさんことを。

われはすべて毒あるもの、害あるものをたち、
悪しき薬を用いることなく、

また知りつつこれをすすめざるべし。

われはわが力の限り、わが任務の標準を
高くせんことを努むべし。

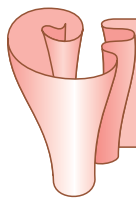
わが任務にあたりて、取り扱える人々の私事の
すべて

わが知り得たる一家の内事のすべて

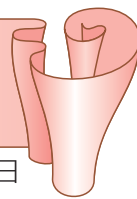
われは人にもらさざるべし。

われは心より医師を助け、

わが手に託されたる人々の幸のために、身を捧げん。



開設83周年記念式典



4月17日

大正14年、郡山市柳内（現駅前2丁目）に星医院を開設してから今年で83周年を迎えたことを記念して、星ヶ丘病院体育館において「開設83周年記念式典」を開催しました。理事長式辞、副理事長による挨拶に続き、ベストトレーナー賞、ベストトレーニー賞および年間エース賞、永年勤続表彰が行われました。また今回は介護老人保健施設オリオンにおいて長年に渡ってボランティア活動を行った「さざんかクラブ」に感謝状が贈られました。

表彰者 （敬称略）

特別表彰

ベストトレーニー賞 法人各施設実習生のうち他の模範となる態度で研修をされた方に贈られる賞

（ ）は所属および研修場所

石田 真実（福島県立医科大学 地域・家庭医療部医師/星総合病院小児科）

熊田 恵（看護師/「再就職を目指す看護職の再チャレンジ支援プログラム」参加者）

穴戸みゆき（ポラリス保健看護学院8回生/星ヶ丘病院B-3病棟 実習）

ベストトレーナー賞 実習生・研修生の指導者のうち特に優秀であった方（職員）に贈られる賞

浅川町役場住民保健センター保健師実習担当（代表 兼子祥生）

添田奈美（星総合病院 脳神経混合病棟 看護師）

年間エース賞 優れた取り組みをした団体・個人に贈られる賞

星ヶ丘地区接遇推進委員会

川名 秀子（介護老人保健施設オリオン）

記念品贈呈

ポラリス保健看護学院の歴代の功労者（学院長・副学院長等）に贈呈

ポラリス保健看護学院創立30周年記念オルゴール

永年勤続表彰

40年表彰（3名）

佐々木靖子（星総合）

堀田 アキ（星総合）

山田 幸江（星ヶ丘）

30年表彰（7名）

梅津智恵子（星総合）

宗形 妃子（星総合）

五十嵐京子（星ヶ丘）

大内栄美子（星ヶ丘）

佐久間利光（星ヶ丘）

西坂 利行（星ヶ丘）

山口 勇（星ヶ丘）

25年表彰（3名）

藤田 俊一（星総合）

武藤 洋子（星総合）

渡辺美智子（星ヶ丘）

20年表彰（20名）

秋山 奈美（星総合）

伊藤 佳代（星総合）

大和田淳子（星総合）

斉藤 愛子（星総合）

坂本 雅子（星総合）

佐久間ますみ（星総合）

佐藤めぐみ（星総合）

田村 元子（星総合）

鶴岡 美果（星総合）

橋本 尚子（星総合）

真柄工ミ子（星総合）

横田 豊子（星総合）

佐久間記江（星ヶ丘）

早川 英子（星ヶ丘）

渡辺 治夫（星ヶ丘）

佐藤 貴志（オリオン）

鈴木 茂（オリオン）

星 ゆかり（オリオン）

真壁 富子（オリオン）

白石 嘉博（三春）

15年表彰（36名）

妹川 佳弘（星総合）

遠藤 光世（星総合）

遠藤八重子（星総合）

影山真知子（星総合）

川上 興一（星総合）

川前 利奈（星総合）

菅野 徹（星総合）

黒羽 末子（星総合）

小池 里加（星総合）

小林 芳子（星総合）

佐藤恵美子（星総合）

渋谷 常美（星総合）

高橋 康子（星総合）

多熊 誠子（星総合）

千葉 寿子（星総合）

西塚 京子（星総合）

橋本 正子（星総合）

長谷川弘子（星総合）

畑中 公基（星総合）

藤田 由紀（星総合）

古内 悦子（星総合）

星 亜由美（星総合）

松坂 美紀（星総合）

結城裕喜子（星総合）

吉田とも子（星総合）

猪狩 寿幸（星ヶ丘）

熊田 勝（星ヶ丘）

桑原 明美（星ヶ丘）

後藤 恵子（星ヶ丘）

斉藤 京子（星ヶ丘）

鈴木喜久代（星ヶ丘）

武田 節子（星ヶ丘）

浜津 富子（星ヶ丘）

増子 国博（星ヶ丘）

本名三千子（オリオン）

横田三枝子（オリオン）

10年表彰（20名）

川嶋 紀枝（星総合）

菊地 郁（星総合）

菊地 康昭（星総合）

郡司 真樹（星総合）

佐久間守雄（星総合）

佐藤 京子（星総合）

高橋 文子（星総合）

堤 雅紀（星総合）

永戸 初美（星総合）

橋本 幹子（星総合）

山口 幸子（星総合）

伊藤 繁子（星ヶ丘）

風間加容子（星ヶ丘）

田中 陽子（星ヶ丘）

田村美由紀（星ヶ丘）

本田 祐子（星ヶ丘）

松山加奈子（星ヶ丘）

佐倉 真弓（オリオン）

中川 洋平（オリオン）

白岩 優子（三春）

星総合：星総合病院

星ヶ丘：星ヶ丘病院

オリオン：介護老人保健施設オリオン

三 春：三春町立三春病院



助産師による思春期保健教育へのアプローチ②

～中学校・高校での健康教室活動～

産婦人科病棟 思春期グループ

今回は、我々助産師による中・高校生に対する思春期の保健教育についてお話します。

思春期は異性に興味を持ち始める時期です。近年、性に対する肯定的見解（性行為してもよいという意見）が、男女とも80%を越していると言われ、また初めての性行為年齢は、14～16歳と若年化が調査報告されています。最近の若者の性に関する情報の入手方法は携帯サイト、インターネット、DVD、雑誌、友人などからで、正確な情報や知識の習得が得られないままに行動してしまい、妊娠、性感染症、中絶、出産している現実があります。

新聞やテレビのニュースでは、いじめ、虐待、暴行、自殺、殺人といった暗いニュースは多くある中で、子供たちに対する十分なフォローがなく、子供たちは心の行き場がないように思えます。

教育の現場では医療専門職種による正確な情報提供の必要性が高く、私たちは、中学校での健康教育に、「いのちの大切さ」を中心に、出産の様子や新生児の特徴、命の神秘について話をしています。

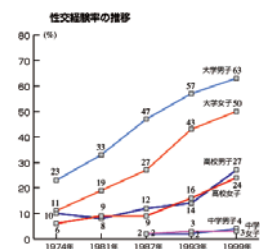
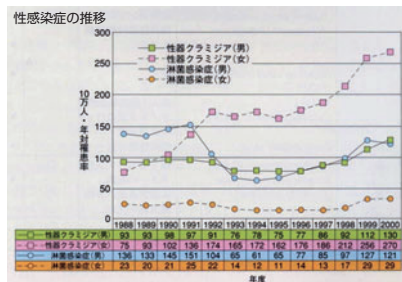
現代の子供達は、出産の場面を録画したDVDなどを見ると、視覚や聴覚から入ってくる情報に対して敏感に反応し、「出産場面を見た事がなかったので、感動した」「いのちをかけて産んでくれたお母さんに感謝したい」「簡単に妊娠・出産はできないと改めて感じた」「正しい知識がえられて良かった」「いのちを大事にしたい」など様々な感想が聞かれます。私たち助産師は、単に「いのち」だけでなく、そこから親への思い、他人への思いやり、人との付き合い方、そして自分を大事にすることなど、多くのことを学んでくれるよう願っています。

健康教室での感想で、「また話が聞きたい・いろんなことを知りたい」「家に帰ったら、母に自分が生まれてからこれまでのことを聞きたい」「これからは人を大切に思って付き合っていきたい」という話が聞かれた時が、一番嬉しい瞬間です。

また子供たちへの講義だけでなく、親のかかわり方・養育環境なども問題にされており、PTAからの健康教室依頼もあります。今回はその報告をしたいと思います。

星総合病院産婦人科病棟には、(社)日本家族計画協会認定の「思春期保健相談士」が3名おり、小・中・高校などの要望に応じて、上記のような思春期保健教育についての出張教室（どこでも健康教室）を行っています。

申込み・お問合せ TEL 024-935-7363（星総合病院 健診室保健師）



糖尿病性神経障害に対するバブ浴(炭酸入浴剤を用いた足浴)の取り組みについて

第一混合病棟 看護師長 鈴木さゆり

星総合病院では、医師、皮膚・排泄ケア認定看護師をはじめ、看護師、管理栄養士など多職種が連携してチームとして活動を行っています。その取り組みの一つとして、第一混合病棟で行っているのが、糖尿病性神経障害を有する糖尿病の患者さんに対しての炭酸入浴剤を用いた足浴「バブ浴」です。

※バブ…花王製品の炭酸入浴剤のこと

バブ浴とは…

お湯（3リットル）にバブ1/2個入れて、足浴を10分間行うことをいいます。



糖尿病性神経障害とは…

糖尿病が進行すると細い血管の血流が悪くなり、神経の細胞まで血液が行き渡らなくなります。また、神経の代謝異常も加わって手足の神経に障害が起こり、痛みやしびれを感じるようになります。神経障害が進むと、痛みを感じにくくなり、低温やけどやケガをしても気づかず、その結果、壊疽によって足の切断にいたることもあります。

取り組みのきっかけ

バブを用いた炭酸足浴には、循環不全を改善させ、創傷を治療する効果が期待できます。このメリットに着目し、糖尿病患者さんのフットケアに取り入れました。糖尿病は、治療効果が得られないと合併症を併発したり、QOL（Quality of life＝生活の質）の低下を余儀なくされることもあるため、糖尿病患者さん自身が自分の皮膚神経障害の程度を知ることは重要です。その意味で簡易に実行できるバブ浴は、フットケアとして、また、患者さんの自分自身の症状に対する意識付けの機会にもなります。

バブ浴の効果

バブ浴は、長期的に継続して行うことにより、鈍くなった末梢感覚に対する回復効果の可能性が期待できます。また、毎日行うことによって足の清潔を保つだけでなく、自分の足を観察する機会にもなり、異常の早期発見につながります。

星総合病院第一混合病棟では糖尿病の方にバブ浴を推奨しています。バブ浴についてご質問やご相談等ありましたら、お気軽にお問合せください。

施設ニュース

星 総 合 病 院

英会話教室開講

4月16日

研修医をはじめ、主に診療部の先生方を対象とした英会話教室を4月16日より開始しました。医療場面における様々なシチュエーションに応じたコミュニケーションのとり方を学ぶことを目的としています。講師はポラリス保健看護学院でも英語の授業の講師を務めるジュローム・クヴァジエ先生です。第一回の開催には、10名が参加し、終始和やかな雰囲気の中授業が行われました。毎月1回定期的に開催されています。



小児科病棟

子どもの日を祝う会 5月2日・7日

5月2日、小児病棟では「子どもの日を祝う会」を実施しました。14組の親子が参加し、保育士による子どもの日についてのお話を聞いた後、全員でこいのぼりの歌を元気に合唱。また、親子で仲良くオリジナルのこいのぼりやカブトを作成し、楽しいひとときとなりました。

また、7日には語り部の金山一長さんがボランティアで紙芝居を披露してくださいました。



ポラリス保健看護学院

入学式

4月10日

1階演習室において、平成20年度入学式を行いました。入学生は皆緊張した面持ちで式に臨みました。新入学生38名に対し、星北斗学院長より入学の許可がなされました。新入生を代表して尾崎絵里さんが、「これからの4年間は楽しみや喜びだけではなく、仲間とともに素敵な看護職者となることを誓います」と決意を新たにしました。



介護老人保健施設オリオン

福祉車両導入

2007年度日本財団福祉車両助成事業により助成金の交付を受け、10人乗りの福祉車両を新たに1台導入しました。車イスの方は最大4名まで乗ることができ、また車イスとストレッチャーの同時乗車も可能です。デイケア（通所リハビリテーション）や短期入所療養介護（ショートステイ）をご利用の皆様の送迎に活用し、高齢者および身体の不自由な方々へのサービスの充実をはかっていきます。



辞令交付式

4月1日

星総合病院南棟3階で、平成20年度辞令交付式を行いました。第1部では、昇格・異動・任用替の計43件の発令が、また第2部では、新入職員80名に対する辞令が交付されました。新入職員を代表して星ヶ丘病院総務課の松井淳一さんが誓いの言葉を述べました。

新入職員は、5月24日～25日にわたり、郡山市湖南町にある少年湖畔の村において行われた宿泊研修に参加しました。



病院モニター会議開催

5月24日

病院モニター会議を行いました。今回は、5月7日より新病院での診療を開始した、三春町立三春病院での開催となりました。スライドを用いた三春病院概要説明に続き、実際に病院内を1階から3階まで見学していただきました。参加した8名のモニターさんより「新しく、また最新の設備や医療器械が整っており素晴らしい病院だと思った」「心が休まる病院である」などの言葉をいただきました。



ときめき!夢フェスタ〜シニアExpo参加 (5月24日〜25日)

シニア世代を中心とした広い世代の方々に生活設計や健康・医療・ファッション・趣味など生活に関する様々な情報を提供することを目的とした「ときめき!夢フェスタ」がビッグパレットふくしまにおいて開催され、当法人もブース出展しました。体脂肪や血圧チェック、栄養相談、口腔ケアなどを行い、総合病院ならではの内容を展開しました。ブースを訪れた方からは「健康について、気軽に相談でき良かった」などの



手洗い実習

の声が聞かれました。ブースには期間中、400名を超える方がいらっしゃいました。



血圧測定

ADATARA Live Demonstration 2008 (6月4日〜6日)

郡山市にあるビッグパレットふくしまにおいて、ADATARA Live Demonstration 2008 が開催されました(当番世話人:星総合病院木島幹博副院長)。心筋梗塞の原因となる冠動脈疾患に対するカテーテル治療のレベル向上と治療技術の共有を目的に1997年から毎年開催されています。今回は星総合病院および太田西ノ内病院とビッグパレットとを中継し、実際の治療の映像を見ながら、解説・討論を行いました。3日間の開催で、全国から医師や技術者など800名ほどが参加しました。



治療の様子を中継して行われた解説・討論

平成20年度さくら野会開催 (5月24日)

「さくら野会」は、星総合病院の外科で乳腺疾患の手術・治療を受けられた患者さんが集まり、平成3年に結成された会です。「さくらの咲く季節に元気な姿で合いましょう」を合言葉に、毎年この時期に親睦会を行って、今年で17年目となりました。今年度の会は磐梯熱海のかんぼの宿で行われ、星総合病院外科の野水整副院長、いがらし内科外科クリニック院長二瓶光博先生を含む、40名程が参加しました。

野水副院長が、さくら野会のこれまでの活動記録や、これからの乳がん治療についてまとめたスライド発表を行った後、皆でお膳を食しながら和やかに懇談。さくら野会会長の佐藤恒子さんらによる日本舞踊も披露されました。



さざんかクラブさん ありがとう

(介護老人保健施設オリオン)

さざんかクラブの皆さんには平成6年から平成20年3月末まで、14年間という長い期間に渡り、介護老人保健施設オリオンでボランティア活動を実施していただきました。ベッドメイキングや茶話会の準備運営、食事や入浴の介助など、入所者・通所者の身の回りの世話のボランティアをしていただきその活動ぶりから職員も多くのことを学ばせていただきました。長きに渡る活動に敬意を表し、開設記念式典では感謝状を贈らせていただきました。

本当に長い間お世話になりました。ありがとうございました。

ご意見をお聞かせ下さい。

ホームページアドレス
<http://www.hoshipital.or.jp>
発行/星総合病院
編集/「懸虹」編集委員会
発行日/平成20年7月30日
住所/〒963-8501
郡山市大町2丁目1-16

毎回、施設ニュースおよびトピックスでご紹介しているように、法人各施設では様々な行事が行われています。広報という仕事に携わってからは、それらの行事に足を運んだり、その他地域の行事など、いろいろな場に参加させていただく機会が増えました。今までは皆さんと同じように、懸虹を通して文字から得ていた情報を、実際の現場に行ってみることで感じることができ、また日々いろいろな情報に触れることができ、これが「広報」という仕事に携わっている者の特権なんだなと実感しています。この特権を最大限に活かして、皆さんにもっと当法人を知っていただけるよう、そして有意義な情報を提供できるように、努力していきたいと思っています。

広報担当 菅野

編集後記